

令和6年12月16日
(2024年)

保護者のみなさまへ

吹田市立吹田第一小学校
校長 津田 一 司

令和6年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和6年度全国学力・学習状況調査」を実施しました。また、吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査結果の分析

●国語

《概要》

全ての領域において、全国値を上回る。問題形式別では、短答式より、記述式の正答率が低かったが全国値をやや上回る。

《各領域における成果と課題》

話すこと・聞くこと

- ・「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうか」を問う問題は、全国値を上回る。
- ・「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりする」ことは、やや全国値を上回る。

書くこと

- ・「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」ことは、やや全国値を上回る。

読むこと

- ・「登場人物の相互関係や心情などについて、描写をもとに捉える」ことに関する問題は、全国値を上回る。
- ・「人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかを問う問題は、全国値をやや下回る。

言語の特徴や使い方に関する事項

- ・「漢字を文の中で正しく使う」ことや「文の中における主語と述語との関係を捉える」ことに関する問題は、全国値を上回る。
- ・「話し言葉と書き言葉との違いに気づく」ことに関する問題は、全国値を上回る。

●算数

《概要》

全ての領域において全国値を上回る。問題形式別では、記述式の正答率が低かったが、全国値を上回る。

《各領域における成果と課題》

数と計算

- ・「計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるか」をみる問題は、全国値を上回る。
- ・「数量の関係を、□を用いた式に表すことができるかどうか」をみる問題は、全国値とほぼ同じである。

図形

- ・「角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるか」をみる問題では、全国値を上回る。
- ・「直方体の見取り図について理解し、かくことができるかどうか」をみる問題は、全国値とほぼ同じである。

データの活用

- ・「円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうか」をみる問題では、全国値を上回る。
- ・「グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうか」をみる問題では、全国値を上回る。

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

●生活に関するアンケート

《生活について》

- ・「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時刻に寝ている」児童の割合は、全国値とほぼ同じである。
- ・「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている」児童の割合は、全国値をやや下回る。

《総合的な学習の時間・特別活動・道徳》

- ・「5年生までに受けた授業で、タブレットをどの程度使用したか」では、ほぼ毎日と答えた児童の割合が、全国値を上回る。
- ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができているか」では、全国値をやや上回る。

《自己肯定感について》

- ・「自分には、よいところがある」と思う児童の割合は、全国値を上回る。
- ・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」では、全国値を上回る。

《家庭学習について》

- ・「勉強のためにICT機器をどの程度使っているか」では、全国値をやや上回る。
- ・「SNSや動画視聴をどれくらいするか」では「1時間以上、2時間以内」という項目で全国値を下回る。

《地域・社会への関心について》

- ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」では、全国値を上回る。

《いじめについて》

- ・「学校に行くのは楽しいと思うか」では、全国値をやや上回る。
- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか」では、全国値をやや上回る。

3. 今後の取り組み

《学習について》

国語科では、漢字を使った語句を選ぶ問題において今年度も正答率が高く、全国値を上回りました。モジュール学習の時間を使って漢字学習に力を入れてきた成果が出ているといえます。漢字の意味の確認や言葉集めなどを丁寧に行い、引き続き漢字の定着に力を入れていきます。また、無回答率には改善が見られ、多くの児童が粘り強く問題に取り組むことができるようになってきました。学校として授業研究に取り組み、学習指導に力を入れたことが、児童の力となっていると考えます。

一方で、条件作文において課題がみられました。時間配分を考えながら、自らの解答を客観的に振り返ることができるよう、今後も学習経験を積み重ねていきます。

算数科では、領域別にみても、昨年度に引き続き、全国値を上回っているという結果でした。特に、昨年度と比べて記述式の正答率に改善が見られ、日々の授業でも記述式の問題を多く取り入れた成果が表れたと考えています。問題の解き方がわからないときでも、あきらめずにいろいろな方法を考える児童が増えてきました。

一昨年と比べると、さまざまなグラフや図などを読み取る問題の正答率が下がっており、丁寧に指導をしていく必要性を感じています。

記述式の正答率は上がっていますが、まだ文章を『書く』ことに苦手意識を持っている児童がいるため、文章で表現する例題を提示し、少しずつ『書く』経験を増やしていきます。

《生活について》

「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時刻に寝ている」の割合は、全国平均とほぼ同じでした。一方で、「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っているか」の割合は、全国平均をやや下回りました。また、「SNS や動画視聴をどれくらいするか」に対しても、全国を下回っていました。

心身ともに健康的な生活を送ろうとしている一方で、ゲームやインターネットを多く利用しているにも関わらず、家の人との約束を守れていない現状があります。ご家庭では日常的に、ICT 機器の正しい使い方や利用時間を話し合う場をもっていただきたいと考えています。学校でも、DC 教育を進めていく必要性を感じており、家庭と連携しながら、ICT のより善い使い手に育つように取り組みを進めていきます。

「自分には良いところがある」と答えた児童の割合は、全国値を上回りました。年度によつての差異は生じていますが、ここ数年の経年変化をみると、年々向上しています。学校では、自己肯定感・自己有用感を高められるように、「ほめる」「認める」ことを大切にしています。授業等の学級活動や学校行事、児童会活動でも子どもたちの良さが発揮できるように、活躍の場を今後も設定していきます。ご家庭でも、子どもたちのがんばりを認め、温かい励ましの言葉を引き続きお願いいたします。

「いじめはどんな理由があってもいけない」と答えた児童の割合が全国値を上回りました。道徳の授業やいじめ予防授業を要とし、全ての教育活動を通じて、道徳性を養い、いじめを防止するための取り組みの成果が表れてきたと考えています。全児童が安心して学校生活を送ることができるように、努めていきます。

今後とも「学校・家庭・地域」と協力して子どもたちの成長を支えられるように、保護者のみなさまのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。